

明治大学校友会
東久留米地域支部会報
第十三号 (平成29年9月)

平成二十九年年度

東久留米地域支部定時総会

33名の校友が参加して

五月二十一日開催

平成二十九年年度の明治大学校友会東久留米地域支部の定時総会は快晴に恵まれた五月二十一日(日)午後一時三十分より成美教育文化会館三階大研修室に近隣地域支部の来賓を含め三十三名が参加して開催されました。



定時総会は長谷川役員の司会で始まり、永倉副支部長の開会の辞。物故者へ黙禱。義江地域支部長の挨拶。来賓紹介。議長選出で松江副支部長が指名され議事に入りしました。各担当者から報告事項・審議事項(事業報告・決算報告・会計監査報告・規約改定・事業計画案・収支予算案)などの説明があり、全て承認されました。役員改選では義江地域支部長をはじめ全員が再選され、新役員に小関裕弘(昭32・政経)が就任しました。来賓を代表されて多摩支部當麻副支部長の挨拶で定時総会は無事終了いたしました。

第二部の始まる前のアトラクションとして市内在住の校友で落語家の立川志獅丸師匠から古典落語を一席伺いました。記念撮影後の懇親会は川島役員

司会で始まり、粕谷清瀬地域支部長より祝辞と乾杯で祝宴が始まりました。テーブルにはビール・日本酒に盛り沢山のオードブルが並び校友同士がお酒を酌み交わしながら親睦を深めました。出席の校友による自己紹介と近況挨拶。最後に當麻役員指揮によりエールと全員が肩を組み輪となり、お明治の校歌を熱唱して閉会となりました。

《平成二十九年年度の新役員の皆さん》

- | | |
|-------|---------------|
| 地域支部長 | 義江邦夫 (昭39・商) |
| 副支部長 | 永倉聡一 (昭26・工) |
| 副支部長 | 松江康司 (昭49・法) |
| 幹事長 | 伊藤謙一 (昭46・経営) |
| 総務担当 | 峯岸文男 (昭46・院農) |
| 総務担当 | 島津進一 (昭55・工) |
| 会計担当 | 江波洋子 (昭37・短経) |
| 事業担当 | 倉田易生 (昭37・法) |
| 事業担当 | 長谷川正次 (昭51・商) |
| 事業担当 | 宮下礼子 (昭35・短経) |
| 女子会担当 | 並木文子 (昭57・商) |
| 地域担当 | 當麻一哉 (昭61・工) |
| 地域担当 | 小関裕弘 (昭32・政経) |
| 広報担当 | 夏目 忠 (昭32・商) |
| 広報担当 | 川島英明 (昭63・政経) |
| 監査 | 橘 素子 (昭57・法) |
| 監査 | 大原康雄 (昭61・政経) |
- (新任の小関役員の紹介記事は3頁に掲載)

東久留米地域支部の皆様へ
地域支部長 義江邦夫



本年度の総会皆様のご協力を頂き無事終了いたしました。厚く御礼申し上げます。今年で七年目を迎えた支部の活動も地道ながら着々と成果を上げており、今後の取組みとして①会員増強②地域貢献活動③各親睦会の充実と発展④マンダリンコンサート⑤母校への協賛など多面的な活動を考えております。今日の明治大学は国際化拠点校・生徒が主体の1000分授業の

実施・学生一人の「個」を強くする教育の展開等あらゆる面で革新的な取り組みとして社会から評価を受けております。東久留米地域支部は「母校を賛助し会員相互の親睦を図る」を目的に活動しております。「明治は一つ」の精神のもと校友の輪を広げて見ませんか。今回都合が悪くお見え頂けなかった皆様には是非とも各種事業・来年の総会にご出席いただけるようお願い申し上げます。

●恒例・明治大学への募金について

今年も総会の会場に設置いたしました「明大サポート募金箱」は校友の皆様のご協力により二万二千六百三十円と昨年を上回る金額となり、



さっそく担当者を通して明治大学キャンパス整備サポート基金へ寄付されました。(写真は来賓の皆様からの募金の一コマ)

●第12回明球会ゴルフコンペ
十二名が参加して開催



さる六月七日(水)梅雨を間近に控え、芝生の色も一段と深みを増し絶好のコンディション

ヨンの児玉カントリー倶楽部に十二名が参加して開かれました。参加者は若い松江令夫人から八十代の高齢者が一緒になって和気合い合いの楽しいゴルフを展開しました。近隣地域支部の校友も参加され、その実力を発揮して優勝は小平地域支部の岸川さん(昭42・工)ネット74。準優勝に新座市の加茂さん(昭35・経)が同ネットで獲得しました。ハンデ戦も四回目となり拮抗したネットスコアとなりました。プレイの終了後、倶楽部の二階で表彰式と茶話会を開きお互いの健闘を称え合いました。参加者全員に渡る賞品は今回も岸川さん(昭46・院農)から寄贈いただきました。紙面をお借りして御礼申し上げます。

今回のゴルフコンペは11月8日(水)を予定しておりますので腕に自慢のあるなしに関わらず親睦のゴルフを楽しみませんか?興味のある方は担当幹事の倉田までご連絡ください。お待ちいたしております。



優勝の岸川さん(右)



準優勝の加茂さん(右)

●小平地域支部のゴルフへ五名が参加
当支部の倉田さんがベストスコア優勝
しかも77のエイジシュートを達成

六月二十三日(金)西武園ゴルフコースで行われた小平地域支部のゴルフコンペに出場された当地域支部ゴルフ幹事の倉田さん(昭37・法)が77のエイジシュート(自分の年齢と同じスコア)を達成し堂々のベストスコア優勝を飾りました。当支部から五名が参加し優勝の他に3位・4位の好成績を収めました。

●次回の明球会親睦ゴルフコンペは

11月8日(水)児玉カントリーで開催

会員の皆様のご参加をお待ちいたします。

倉田迄

●植栽ボランティア活動へ4名が参加

駅前通り花壇にベコニアを植栽

当地域支部の地域社会との関わりの中で植栽ボランティア活動があります。東久留米フラワーネットワークの駅前通りの植栽事業に四名が参加しました。今回は6月25日(日)小雨の中を午前9時より市役所通りから始まり南沢通り信号から歩道を折り返して駅まで。駅の西口から浄牧院信号を再び折り返し西口から市役所までの歩道の花壇にベコニアを植栽しました。今回も各種のサークル、老人クラブなど多くのボランティアが参加して二時間足らずで可憐なベコニアが駅前通りを美しくお化粧いたしました。次回の参加希望者は当地域副支部長の永倉までご連絡ください。(永倉)



●次回の植栽活動は12月3日(日)
校友の皆さまの参加をお待ちします

●夏目幹事が「アカデミー・ドクター」を受賞

3月25日・駿河台キャンパス・リバティータワー23階ホールで「28年度生涯学習リバティータワーアカデミー称号授与式」が行われ、当校友の夏目広報担当幹事(昭32・商)が「アカデミー・ドクター」(12人)を受賞しました。誠にありがとうございます。大変名誉な事であり、我が校友の模範で誇りに存じます。長年の努力に敬意を表します。(岸幹事記)



平成29年度
当地域支部の総会
懇親会のスタッフ



●女子会企画・お話し会の
「わが町の誇れる歴史」35名が参加

江戸時代を中心とした歴史を郷土史家の竹内俊雄氏が講演
東久留米地域支部の女子会企画のお話しの会はさる七月八日(土)午後一時半より中央図書館視聴覚室へ三十五名が参加して行われました。(参加費五百円。茶・菓子付)今回は東久留米の町の誇れる歴史を身近に感じて欲しいとの思いで企画されたものです。講師は生まれも育ちも東久留米と云う元東久留米市役所の出納長をされ、郷土史研究家の竹内俊雄氏から資料をふんだんに使いながらお話を聞くことが出来ました。内容として「市内には約三万年



前の遺跡が発掘されているので日本列島の中でも人類の住み始めは早い方である。



江戸時代の東久留米は落合・小山・前澤・門前・神山・南沢・下里・柳窪の八つの村からなり立ち、いずれも幕府、大名、旗本の知行地に分けられる。村

の成り立ち、村落の立地、村人の生活と文化、その当時の寺院と神社。農民の祭と休日などが資料と付け合わせながら興味深く聞くことが出来ました。当日は校友以外の東久留米の歴史に関心をお持ちの方も多く参加されました。

●ご存知ですか
明治大学の考古学教室に

東久留米の遺跡調査に貢献

明治大学の文学部考古学教室の戸沢教授を団長に組織された下里本邑遺跡(野火止3丁目)の調査は昭和53年の確認調査から始まり昭和57年には遺跡公園としての整備に着手し今に至っています。この間、明大の教授・院生・学生や考古学出身の校友が遺跡調査に参加、協力して多大な成果を上げました。ほかに旧石器時代の西下里遺跡(下里4丁目)縄文時代中期の集落跡として確認されている新山遺跡(下里3丁目)の発掘調査にも大勢の明大関係者が参加し明大考古学の名を残しております。

特に下里本邑遺跡の特徴として同一場所です旧石器時代から縄文・弥生時代を経て奈良・平安時代にいたるまで、時代相の厚い複合遺跡としての構造が考古学会から注目を受けました。この理由に武蔵野台地の中央部に位置する東久留米の地形は西から東にかけてなだらかに傾斜し、多くの湧水から発する川も西から東へ流れる豊かな水域を形成。石器時代や古代人にとって豊かな水。変化にとんだ谷。日当たりの良いゆるい起伏の台地こそ人類が活動し、生活のしやすい場所と云え



ましよう。東久留米には前記の遺跡の他に多聞寺・小山台遺跡公園など138ヶ所の遺跡が確認されており。日曜日の朝の散歩に黒目川をたどりながら遠い先土器時代に思いを馳せてみてください。(写真は落合川の魚とり)

ましよう。東久留米には前記の遺跡の他に多聞寺・小山台遺跡公園など138ヶ所の遺跡が確認されており。日曜日の朝の散歩に黒目川をたどりながら遠い先土器時代に思いを馳せてみてください。(写真は落合川の魚とり)

●随筆「明治大学と私」

小関裕弘(小山在住)

(昭和32年・政経卒)



戦前、戦中、戦後と動乱の歴史を体験した私は今年で八十二歳となります。新宿に生まれ当時の国民学校に入学し太平洋戦争勃発後に7月の集中豪雨で話題となった大分県日田市に縁故疎開をして百名家を手伝いながら過ごしました。終戦で疎開先から東京に戻り渋谷区の中学・高校で無難な少年時代を過ごしました。

昭和二十八年に明治大学に入学し和泉校舎で学生生活をスタートいたしました。しかしサラリーマンの父の収入では私を含め姉弟四人の学費の面倒は見切れず。春・夏・冬の長い休日のほとんどをアルバイトで過ごしました。

当時は学校、アルバイト先も詰襟の学生服が普通のスタイルで、東横百貨店の地下食料品売場のアルバイトは詰襟服の上に白衣を着て接客の仕事に努め、お客の奥様方からも評判も良く楽しい思い出となっています。当時の和泉校舎には野球場もあり、授業の合間に学友と見学したものです。この時のクラスの連中とは卒業後も年に二三次旧交を温めておりますがその都度メンバーが少なくなるのがさびしい限りです。駿河台校舎へ移ってもアルバイトに精を出す日々が続く単調な学生生活でしたが印象深い二人の先輩は今でも忘れません。それは野球部の島岡監督とラクビー部の北島監督です。前者は応援団。後者は相撲部の出身で異色の存在でした。しかし二人とも人望と優れた統率力で数多くの優秀な人材を集めて明治大学の黄金時代を築きました。島岡氏はピンチになると選手を集め「何とかしろ」北島氏は「前へ」のひと言葉だけです。一九八七年国立競技場に六万余名を熱狂させた雪のラクビー明早戦は一生の思い出になりました。この度、地域支部の役員に就任したのを機に校友の皆様と共に楽しい地域支部作りを努めます。

●明治大学校友会東久留米地域支部

役員会だより(三月までは前号)

4月8日第七二回役員会・11名出席
義江支部長より本部・多摩支部関係の報告。京王線明大前駅の発車メロデーに明大校歌を採用。支部総会は6月18日立川グランドホテルで開催。地域支部総会について伊藤幹事長より案内状は182名の校友へ4月8日発送。母校中野キャンパスの散策会の報告。

5月13日第七三回役員会・14名出席
義江支部長より全国沖縄大会の日程の紹介。台湾での総会に出席の要請。伊藤幹事長より当月開催の東久留米地域支部の総会出席者の報告29名を予定。進行表・役割分担の確認。女子会企画「我が町の誇れる歴史」と題して7月8日開催。講師は竹内俊雄氏

6月10日第七四回役員会・13名出席
義江支部長より本部・支部関連の報告。多摩支部の総会に当地域支部から6名が参加予定。各地域支部総会へ出席の役員より報告。当地域支部総会の件で伊藤幹事長より明大募金箱には二万二千六百三十円集まり、大学へ届けたとの報告。今年の総会については各役員から問題の提起があり順次検討予定。

7月8日第七五回役員会・11名出席
義江支部長より校友会本部・多摩支部に関する件(多摩支部の総会の報告など)地域支部関係では小平名球会ゴルフコンペ。市内植栽ボランティアの報告。女子会のお話しの会は予定通り開催。会計担当より本年度の会費は40名が振込。秋の散策会を協議。(写真は7月8日の役員会)



8月の役員会はお休みです。

「明治はひとつ」

明治大学校友会東京都多摩支部

定時総会を開催（6月18日）

250名の校友が参加



東久留米地域支部が属しており

まず東京都多

摩支部の本年

度の定時総会

は6月18日

（日）午後一

時より立川駅

前の立川グラ

ンドホテル4

階の大宴会場

で開催されました。当日は爽やかな

気候に恵まれて東久留米地域支部

の五名を含め多摩支部傘下の二十

一の地域支部から250名の熱心

な校友が集いました。第一部は当番

支部の女性校友の司会で始まりま

した。議事では事業報告・収支決算

報告・監査報告がそれぞれ説明の後

に承認され、今年度の事業計画・収

支予算・役員の変更

選案などが無事

承認を受けまし

た。来賓代表挨拶

として明治大学

の新理事長に就



任された柳谷孝氏による本学の近況が

次の要領で話されました。毎年志願者が

10万人台を記録して相変わらず当校

への人気が高い。海外留学制度の充実

により国外への留学生は年々増え続け

ている。また海外からの当校への留学生も

増えており今年は二千人を受け入れる

予定。このため居住施設や奨学金制度の

充実を図る予定。同時に国内の地方出身

者の経済支援活動も積極的に取り組む。

この度格付投資情報センターから「AA

（新規）」の格付を習得し学校法人では

最上位の評価を受けました。（以上）

第二部のアトラクションに続き各地

域支部の1分間アピールでは義江当支

部長が今年の総会の模様をスライドに

より説明しました。

第三部の懇親会は来賓祝辞・明大祭の

案内・乾杯に続き中華

料理による祝宴が行

われました。各地域間

の交歓が持たれまし

た。最後に校歌斉唱と

明治大学と多摩支部

の万歳三唱が行われ

第14回目の東京都

多摩支部の定時総会

も無事に終了、親睦を

深めた校友は来年の再会を誓いました。



本土復帰45周年記念

第53回明治大学全国校友

沖縄大会の案内

年に一度の全国各地の校友が一堂に会

して旧交を温め、母校明治大学を協賛する

第53回目の全国校友大会は来る十一月

十八日に本土復帰45周年を記念して沖

縄県宜野湾市で開催されます。全国校友大

会は明治大学の校友ならば誰でも参加で

きる行事です。あわせて観光コースツアー

も多数用意しておりますので沖縄見物を

兼ねての参加はいかがですか。

十一月十八日（土）の大会内容

・沖縄コンベンションセンター劇場棟

第一部・記念式典 14時より

第二部・記念講演

「琉球王国とアジア諸国との交流」

琉球大名誉教授・高倉倉吉氏

「琉球・韓国の舞踏に於る比較研究と

共創」明治大学準教授・波照間永子氏

お問合せは ☎ 473・5310 義江迄

●第20回「ホームカミングデー」開催

ご家族と一緒に今の明治をご覧あれ

うれしい再会、新しいつながりをテーマに

今年も校友を招くホームカミングデーが

10月22日（日）駿河台キャンパスで

開催されます。当日は記念式典を始め沢山

のイベントが用意され、今の明治大学を知

るには絶好の機会です。ご家族と一緒

母校・明治大学の最近の話題

海外留学奨励助成金を新設

一人あたり最大300万円（二期）

明治大学はこの度、世界トップクラスの大

学への留学を促進し本学の教育・研究の高

度化およびグローバル化に資することを目

的に「明治大学学生海外トップユニバーシ

ティ留学奨励助成金」制度を新設しました。

対象は本学の協定校で世界屈指の大学であ

る米国・スタンフォード大学・ペンシルベ

ニア大学などへ留学する学生です。一学期

で一人当たり最大300万円を支給し、留

学費用の経済的負担の軽減につなげます。

●外出支援ロボットを開発

理工学部の黒田教授のロボット技術を応用

した研究が当校の地域産学連携研究センタ

ーを拠点に進められてきましたがこの度、

試作車が生田キャンパスで披露され、従来

型にない運転支援機能を備えた走行で関係

者から注目を集めました。このプロジェクト

は神奈川県、川崎市、同民間企業などが

参加して共同開発したものです。

●科学研究費助成事業は過去最高

295件・6億7041万円

独立行政法人日本学術振興会から本年度の

科学研究費助成事業の交付内定が発表され

明治大学の採択件数は新規と継続で295

件・6億7041万円で過去最高を記録。

●年会費（三千元）納入のお願い

東久留米地域支部の本年度の年会費につ

きまして皆様のご協力を賜りますようお願い

いたします。会費の三千元は会報・連絡

など当会の運営に使われます。

（江波）

明治大学校友会東久留米地域支部会報

第13号平成29年9月25日発行

発行責任者・義江邦夫・編集川島・夏目